

東田利町報

No 288 昭和54年3月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



No 288

3
/ 1

《期待される暗渠排水工事》

県営圃場整備事業では、53年度から年次計画で暗渠排水工事を実施しています。

今行われているのは、昭和49・50年に面工事を終えた館合地区の96.3ヘクタール。

工事は、トレンチャーで標準90cmの深さに堀削し、口径60mmの吸水管を布設、被覆材としてソダ、モミガラを入れて埋め戻すもの。

今年は暖冬異変で田んぼの雪も少なく、作業も順調に進んでおり、うまい米づくりと、円滑な転作の推進に、今後の成果が期待されています。

十アル当り収量364^キの好成績

米以上の所得も可能

転作大豆でも、十アル当り三百^キ以上の収量をあげることができる——これは、町農業総合指導センターが昨年設置した「大豆転作展示ほ」が実証したもので、今後、換金性の高い作物の定着化と複合経営の確立をめざす本町農業にとって、一つの明るい方向を見出したものといえます。



やり方次第では、米を上回る所得も得られることを実証した展示ほ

転作大豆展示ほ成績表

① 主なる耕種概要

	品 種	石 灰 ようりん	堆肥散布	耕起、碎土 整地	畦巾×株間	基 肥 N・P・K
遠藤聚一	シロセンナリ	120kg 60 ^キ	1.5t	トラクター2回 畦立機	70×12 cm cm	2・8・8 kg kg kg
嶽石忠司	〃	120kg 60 ^キ	1.0 ^キ	トラクター 畦立機	70×20	2・8・8
佐藤幸一	〃	120kg 60 ^キ	1.0 ^キ	トラクター 手	75×13	2・8・8

栽培管理は 農家に委託

米が余るといふ現実、向う十年間、水田利用再編対策の実施といった形になって表れ、稲

苗床播種	直 播	移 植	除 草	中耕・培土	防 除
5月20日	-	6月10日	-	2回 (6月24日 7月14日)	タネバエ(ダイアジノン粉剤) ウコンノメイガ(スミチオン粉剤)
-	5月27日	-	トレファノ サイド乳剤	1回 (7月16日)	-
5月21日	-	6月9日	-	2回 (7月7日 7月16日)	タネバエ(ダイアジノン粉剤) ウコンノメイガ、マメシクイガ

米が余るといふ現実、向う十年間、水田利用再編対策の実施といった形になって表れ、稲

② 生育調査

開花期	成熟期	完全 莢数	莢化の 難 易	莖長	生育 日数	結実 日数	10a 当り 労働時間	10a 当り 収量
7月27日	10月8日	80	やや莢化	cm 85	日 141	日 74	時間 126.8	kg 364
7月26日	10月4日	85	難	65	131	70	121.0	300
7月27日	10月8日	104	難	75	142	74	142.7	311

③ 収益性

粗 収 益			経 営 費	
販売量	単 価	金 額	金 額	内 訳
kg	円	円	円	
360	330	118,800	22,957	種苗費 1,950円 燃料費 525円 肥料費 7,174円 農機具費 6,179円 防除費 7,160円 水利費 750円 施設費 4,127円 流通費用 1,092円

◎ 所 得 (①-②) 118,800円-22,957円= 95,843円

(・労働8時間当り所得= 6,046円)

飼料作物は畑山克司さん(島)、莊野高さん(五海保)、大豆は遠藤聚一さん(宿)、嶽石忠司さん(八日町)、佐藤幸一さん(津沢)にそれぞれ管理を委託しました。

このうち、飼料作物については夏季の異常ともいふべき高温により、期待した成績は得られませんでした。

しかし、大豆は、別表の耕種概要及び調査結果のとおり、三カ所とも十アル当り三百^キを超える収量をあげ、販売価格と転作奨励金を合計すると、米以上の所得も得られることを実証しました。

再編対策は一年や二年で終わるものではなく、実際十年も続くと言われることから、長期的将来の展望に立ち、栽培経験もあり、確実に安定収入を得られるものとして、補償価格のある大豆を選んだものです。

昨年は、異常気象と言われながらも十アル当り三百六十四^キという高収量を得たことは、一つの確たる自信につながりました。

これからの大豆転作は、圃場条件を考慮しながら、決して作りにくくはなく、手を加え、良質なものを生産しなければならぬと思います。収穫したものはどんなものでも一俵二万円を買ってくれるものではないと、米と同じような等級検査があり、

基準に合格しなければならぬのです。

町、農協でも、今後はこうした圃場選びから、選別・調製、出荷など、細かい点についても指導してもらいたいと思います。昨年の結果から今年は、十ア当たり収量四百キを目標に、面積も増の二十アに増やします」と、大豆転作に意欲を燃やしています。

農家所得の向上と

経営の安定化を

大豆は、国内需要の約九七パーセントが輸入に頼っている現状で、水田利用再編対策でもこの自給率をあげるべく、重点作物に指定し、国、県、町ともにその作付拡大を推進しています。しかし、農家側からは、「収

量的にも問題がある」「手間が合わない」などと、作付けに当っては消極的で、今一つ延び悩みをみせていました。こうした中で、やり方によっては米以上の所得が得られることを実証した展示圃の成績は、複合経営の確立をめざす本町農業にとって非常に意義深いものといわれます。

町では、農業団体とも連携を

町議会第一回臨時会

町職員定数条例の一部を改正

東田利町議会第一回臨時会は二月九日に招集され、次の案件について審議、全案件を原案どおり可決しました。

【東田利町職員定数条例の一部を改正する条例について】

東田利町職員定数のうち、町長の補助機関の職員の数を現行の五十一人から五十四人に改め合計を七十六人から七十九人とした。

【町有土地を貸し付けることについて】

次のとおり、町有土地を貸し

付けるものとした。

- 一、貸し付ける土地及び面積
・東田利町田代字南の沢六の内一四二、七七六平方尺
- ・東田利町田代字金森沢四二の一の内一三三、一六一平方尺

- ・東田利町館合字田の沢一一八の内一六四、二二一平方尺
- 二、貸し付け期間
契約の日から十一年

- 三、貸し付け料
十アにつき年額五千元

- 四、貸し付けの目的

老人居室 整備資金 貸付け申請について

老人福祉の増進を図るため住家の増築または改築で老人の居室を整備する方に、資金の貸付けをします。

貸付け申請の受付は、四

月上旬から五月上旬となっておりますので、詳しい内容を知りたい方は役場住民課住民厚生係にお問い合わせください。

(内容―町報5・1号掲載)

町職員定数条例の一部を改正

昭和五十三年において施行する次の町営土地改良事業に係る経費の賦課基準は、関係受益者の実測による地積割とし、負担金の徴収時期は、町長が定めた期日とするともに、その方法は、金銭をもって普通徴収とした。

- 一、事業名
・板戸地区圃場整備事業
・田代地区農地造成事業
・上の台地区圃場整備事業
・下吹地区水路整備事業

【町有財産を処分することについて】
農免農道根小屋地区道路改良事業に伴う道路敷地として、次の町有土地を売り払い処分するものとした。

- 一、財産の所在地及び数量
・東田利町宿字中ノ沢地内
六三四・〇八平方尺

- ・東田利町宿字卯台地内
五、九四〇・八四平方尺

- ・東田利町宿字柳股地内
四、三五三・二九平方尺

二、売り払い先

秋田県知事 小畑勇二郎

町長日記

蔵・法内の酪農家によって、蔵水田酪農組合が設立される。水田再編成が避けて通れない現実から、この積極的な姿勢は評価される。

社会教育というジャンルは、社会教育の中に行政があり、行政の中に社会教育があるというものではなからうか。教育委員、公民館の皆さんと話し合う。

八塩開拓道路の改良工事採択陳情に農林水産省構造改善局開発課へ。戦後の開拓行政に終止符を打って、今後は一般農政の分野に入る。そのため未解決の開拓行政を解決しようとする国の方針であり、この際、八塩開拓道路、三、〇五〇Mを改良しようというものである。

出稼者の短期研修会、参加者は一六〇名。議会議長副議長、産経委員長、農協組合長、参事の各氏も参加されて盛会。町に居ては毎日合せられる顔であつても、東京の空の下では特別の実感がする。農林水産省参事官の三浦昭一氏に肉牛についての講演を依頼した。我々が肉牛飼育で不安を感じているのは、輸入牛肉の外圧である。ジャーナリズムもこれを書き立て、日本の保護政策が牛肉の価を高く

していると宣伝しているし、また生産者の方は、政府が外圧に屈してアメリカ等から牛肉を入れたのではないかと思っているがどうだろうか。

三浦参事官の講演の要旨は、①牛肉は世界の消費量からみると不足であつて、輸出入分に回せる量は僅少である。②アメリカからの外圧は、アメリカ全体の政策ではなく、畜産業者と関連のある政治家の一部の圧力である。③日本の牛肉が高いという内容の分折は安く消費者に渡っている牛肉もある。④飼育コストのアメリカと日本の比較。要するに、肉牛は安心して増産してよいということであつて、参事官に大いなる感銘を与えた。向田出身の横山君の民謡団の協力があつて盛会裡に終了。

東京の空は快晴であつたが、東田利の空はと思ひながら、福島の畜産試験場長の吉田武紀さんを迎えての畜産講演会。東京での三浦参事官は行政の立場から講演されたが、吉田場長は、牛肉の量と質からの系統の選別――どのような牛が高く売れるか、行政の運営と業者の意識について説明された。有意義な講演であつた。今後も来町して指導されたいとお願いした。

出かせぎ農業者

激励会

及び短期研修

元気に帰省することを誓う

都内及び近県から 154 人参加



↑ 開会 1 時間前から、参加者はぞくぞくと会場へ

「ヤア久しぶり、今どこにいる」「仕事の具合はどう？」。出かせぎ農業者激励会及び短期研修、安全就労推進集会が二月十八日、東京都千代田区の都道府県会館本館で行われました。

この会は、町の出かせぎ対策の一つとして四年前から実施されているもので、当日は都内及び近県から百五十四名の出かせぎ者が参加、町から出席した町長以下町職員、議会議長、同副議長、同産業経済委員長、東田利農協長、同参事らと約五時間にわたって懇談、留守家族のこゝろや出かせぎの状況などについて情報交換をしました。

集会ではまず町長があいさつに立ち、現在町で実施中の農業振興事業や道路改良事業及びモデル事業など、今後導入計画している事業の概要について紹介、理解と協力を要請するとともに、

「ヤア久しぶり、今どこにいる」「仕事の具合はどう？」。出かせぎ農業者激励会及び短期研修、安全就労推進集会が二月十八日、東京都千代田区の都道府県会館本館で行われました。

この会は、町の出かせぎ対策の一つとして四年前から実施されているもので、当日は都内及び近県から百五十四名の出かせぎ者が参加、町から出席した町長以下町職員、議会議長、同副議長、同産業経済委員長、東田利農協長、同参事らと約五時間にわたって懇談、留守家族のこゝろや出かせぎの状況などについて情報交換をしました。

さらに町出かせぎ担当係から、町の出かせぎの状況と安全就労、

事故もなく四月には皆んな元気に帰郷してほしい、と激励しました。

続いて、長沢議長が「皆さんの元気な顔が見られてうれしい。留守家族への最大のみやげに帰る」、大熊県出かせぎ互助会相談員が「最近、出かせぎ者の交通事故が増えているので注意を。困りごとや相談ごとがあったら、互助会にも連絡してほしい」、小松農協長が「留守家族は毎日心配しているから、連絡は絶やさない。今年は非常に雪が少なく、異常気象に間違いのないから、春からの農作業もそれに対応できるように心がけてほしい」と、それぞれあいさつ、あと二カ月ちょっとと元気で頑張ってもらいたい、と激励しました。

↑ 開会 1 時間前から、参加者はぞくぞくと会場へ

それには、四月八日に予定されている県知事及び県議の統一選挙に係る不在者投票の方法などについて説明がありました。

このあと、農林水産省畜産局参事官の三浦昭一氏から、「山村におけるこれからの畜産と複合経営」と題する講演が、約一時間半にわたってありました。

この中で三浦参事官は、外国における畜産の実態と輸出入肉の関連、日本の食生活と牛肉の流通関係などを説明しながら、「牛肉生産の根底は肥育ではなく繁殖にあり、繁殖の基本は粗飼料給与にある。自分の周りの土地条件を有効に利用し、牛で村を立てる決意」で取り組むことが大切」と、山村において畜産を営む基本精神を説き、農業者は、一層のやる気を奮い立たせていたようでした。

午後からは、準備された折詰めやお酒、ジュースなどを交しながら、お互いの近況や情報交換を行ない、町からの出席者には、故郷の雪の状況や留守家族のことなどについて尋ねていました。

また、会場には昨年に続いて本町向田出身の横山幸二郎さん、八日町出身の佐藤功さんらが尺八、三味線の奏者とともにに激励に訪れ、出かせぎ者とともに、まるで「素人民謡名人大会」を思わ

↓ 真剣に講演を聞く参加者



↑ 次々に自慢の「のど」を披露し、会場はまさに「素人民謡名人大会」



あいさつを聞きながらも、思うは夫や息子のこと

今年で四回を数える「出かせぎ留守家族懇談会」は、二月十一日に町開発センターで行われました。

会場には、町内各地区から福祉バスなど四台のマイクロバスで、主婦を中心に三百七十人余りの留守家族が集まり、暖冬の中での楽しい一日を過ごしました。

懇談会では、まず町長が、出かせぎにいく人のための健康診断や技能訓練講習会、短期研修並びに激励会、留守対策など、町で実施している出かせぎ対策

出かせぎ留守 家族懇談会

夫や息子の元気な姿に安心

事業所訪問の八ミリも上映

の概要説明も加えながらあいさつをしました。

続いて、柿崎県出かせぎ対策室長、長沢町議会議長、小松東由利農協長から、留守家族と出かせぎ者との連絡を密にしなごら、四月には全員元氣な姿で顔を合わせようにしてほしい、とあいさつがありました。

このあと、町の出かせぎの現状と諸問題について、係から説明があり、さらに、一月下旬に上京、各事業所を訪問して出かせぎ者の働いている状況等を収めてきた八ミリフィルムが、約

一時間にわたって上映されました。

広い集会室いっぱい集った人たちは、大きく写し出されるスクリーンをくい入るようにつめ、夫や息子、近所の父さんなどの顔が出てくると一層体を前に突き出し、その一挙一動に目を走らせ、元氣な姿を確認し喜び合っていました。

また、正月過ぎに再び家をあとにした出かせぎ者たちが、スクリーンを通して「……元氣で働いているから心配ない。留守を守るみんなも健康に注意して

頑張っしてほしい……」などと、故郷へのミニメッセージを送ると、会場のあちこちからは、大きなよめきと拍手がわきおこっていました。

映画「おかあさんちよっ」とって、小さな愛の詩」を見たあと、午後からは、準備された折詰やお酒、ジュースなどをいただき、お互い留守家族同志、遠くで働く夫や息子に思いを寄せながら話の花を咲かせていました。

また、ステージでは町民謡同好会と町踊りの会の歌や手踊りが行われたほか、参加者からも飛び入りで後を立たず出て自慢ののを披露、ともすれば暗く湿りがちな冬のひとときを、明るい笑顔で楽しんでいます。

→ ヤア久しぶりーと元氣な声で受付へ



↓ 仕事のこと、留守家族のことなど
話題はつきない



せるほどの熱氣あふれる即席ステージをつくり、大いに喜ばれました。

午後三時、藤原産経委員長の

音頭で、全員が元氣に帰省することを誓い合って万歳を三唱し、盛会のうちに会の幕を閉じました。

→ 全員が無事故で帰省することを誓い万歳三唱



マッシュルーム

冬期間も農業に生きる

安心できる契約栽培

出かせぎをやめ、一年を通して農業で生きよう——と、昨秋から本町では初のマッシュルーム栽培に取り組んでいる人たちがいます。

マッシュルームは、稲わら促成堆肥（一棟当り一・五畝分の稲わら必要）に菌を植えつけ、その上に山土をかけた床で栽培されるもので、その香りはマツ

タケに似ているところから西洋マツタケともよばれ、年々需要も伸びているといわれています。また、主な作業は十一月から三月までの農閑期になるため、稲作との労働力の競合がなく、しかも、販路も決まっている契約栽培ということで、冬期間の拡大作目として最近、注目をあびてきています。



今冬からは、夫婦一緒に働ける—これが何よりうれしい

栽培しているのは、遠藤常雄さん（35歳、家の下）、大日向二郎さん（46歳、宮の前）、島山節雄さん（39歳、舟打場）、小野金蔵さん（30歳、須郷田）、小松久賢さん（29歳、須郷田）、小野克弘さん（26歳、上里）の六人で、それぞれ九二・四平方メートルの菌舎一棟を建て、十一月下旬から十二月上旬にかけてその中に、上下四段、二列、計八段（タナ面積一六五平方メートル）の栽培床を作り、一月中旬から収穫を始め、五月頃までおよそ二・五トン（うち三月末まで約七十五トン収穫）の収量を見込み、真白なマッシュルームとともに忙しい毎日を送っています。



いかに多く一級品を生産・出荷するかが課題

同栽培は、本荘市にある缶詰会社と農協、農協と農家との契約栽培で、本荘、由利地方を中心に平鹿、雄勝、南秋地方などで行われています。収穫されたマッシュルームは規格によって一級から三級に区分され、今年は一き当り、一級が三百四十円、二級が百八十円、三級が五十円の契約価格で、約八十万円の粗収益（一棟当り）を見込んでいます。

上位等級品の生産 出荷割合の向上を

六人は去る一月十八日、「東由利マッシュルーム生産部会（遠藤常雄部長）」を結成し、組織基盤の確立を図る一方、初めての栽培でもあり、会社から週二回の巡回指導を受けているほか、合い間を見て仲間の菌舎を訪れ、疑問点などを話し合いながら、お互いの技術の研修、向

上にも努めています。初代部長に選ばれた遠藤さんは、「……みんなが初めて取り組む事業なので、床詰めや植菌などの作業を終えた時には、はたしてうまく発生してくれるかどうか不安でした。」

それだけに、土の中から純白のキノコが顔を出した時には、うれしさが胸がいっぱいになりました。

六人の仲間には、始めたからには失敗は許されぬ、人に笑われないように、何とか成功させよう——と、お互い努力をづづけています。

確かに、出かせぎに比べると今の時点では現金収入は少ないし、苦労もあります。しかし、自分で働いた分はそのまま一つの形となって表れてきますので、逆に楽しみがあります。それに、家族と一緒に暮らせることが何よりうれしいです。

これからは、家族労働力を考慮しながら、いかに多く一級品を生産、出荷して所得の増大、経営の安定を図るかが大きな課題です。

できれば、もう少し仲間を増やしたいと思っています。……と、出かせぎをやめて取り組んだ新たな拡大作目の定着に、意欲を燃やしていました。

稲単作からの脱却と、複合自立経営をめざす本町農業にとって、このマッシュルーム栽培は今一つの新しい芽を出したところと言われ、今後この芽が、大きく大きく育つようにと関係者は期待しています。

一滴

テレビの朝のショー番組で、アナウンサーが、「お早うございます。今日は啓蟄。穴ごもりしていた虫はい出して来る季節です。いよいよ春ですね」といったら、聞いていた子どもが、

「ほんとだね。さつき流しのところにギブリが顔出してたよ」といったとか。自然に目を向けることが少なくなった最近の生活では、虫といえばギブリなどをすぐ連想するのもむりないのかもしれない。暖房が行きわたって、ギブリなどがビルや家の中で越冬するようになって、季節感がうすれてしまいました。啓蟄は、年を二十四の節氣にわけて季節をあらわすもののひとつで、冬眠していた虫やヘビが、穴から出て来る時期。毎年三月六日ごろがこの日にあたり、今年は三月六日。さて、人間社会での三月は卒業のシーズン。若者たちが、通い慣れた学び舎をあとに、厳しい実社会へと巣立っていく時期です。ものすべてが、春の陽射しを受け、新たな芽を出し成長するこの季節。飛び立つ若者の前途に、幸多かれと願うもの。

肉牛の改良はみんなで いい子牛は地元に残す



高く売れる子牛を生んでくれる牛を増やすことと講演する吉田議長

肉牛の里づくりをめざして。農学博士で、現在福島県畜産試験場場長の吉田武紀氏を講師に迎え、町、農協、共済組合東由利出張所の三者で共催する「肉用牛飼育講演会」が、二月二十二日に町開発センターで開催されました。

当日は、日頃から牛の世話に熱心なお年寄りや母さんたち百八十余名が集まり、「肉牛の改良について」と題する約二時間の講話に、真剣に耳を傾け、メモを取っていました。

講話を聞き終えた参加者たちは、「わかりやすい話で大変ためになった。こうした講演会は今後も続けてほしい」と話し、良質牛への改良飼育にファイトを燃やしていました。

本町における肉用牛飼養頭数は年々増加し、しかも全体的に多頭化の傾向にあります。

また、水田利用再編対策の実施によって農家の畜産にかける

異動する方は早めに準備を

抄本か謄本がよく確めて

三月から四月にかけては、就職や進学などで住所を異動する方が多くなります。役場の窓口もこの時期になりますと、毎年混み合いますので、住所を異動する方は早めに準備しましょう。

他市町村に住所を異動する場合（転出）は、異動する前に役場に届け出て「転出証明

書」を交付してもらい、転出先（就職や進学先）の市役所または町村役場（東京都などは区役所）へ、転出した日から十四日以内に転出証明書を持参して住民登録してください。

転出証明書を交付してもらうときは、転出先の住所をできるだけ詳しく（番地や方書きまで）、明確に届け出てください。

就職や進学に必要な戸籍謄本あるいは抄本は、就職する会社や進学する学校によってそれぞれ違いますので、案内書などをもう一度確かめてから請求してください。

また、転出・転入の届け出をする時には、申請者の印鑑が必要で、国民健康保険や国民年金の加入者は、それぞれの保険証、年金証書も忘れずに持参してください。

期待と熱意は一層高まってきています。

しかし反面、粗飼料基盤の確立や衛生管理面など、まだまだ多くの問題が山積されています。

町では、こうした諸問題を解決し、複合自立経営農家の育成とともに「畜産東由利」を築きあげるために、草地造成や優良素牛の導入、優良子牛の保留対策など、各分野にわたった振興策を講じており、今後さらにこれら施策の充実を図ることにしています。

講演骨子

牛を改良していくには、登録制度の活用が基礎となる。

商品価値を高め、市場での評価を確立するためには、その地域独自の、しかも資質の揃った牛を生産しなければならぬ。

つまり、血縁関係のある系統牛をつくること。これには、個体間系統繁殖、形質間系統繁殖、準系統間繁殖、戻し交配、の四方式があり、これらをいかにうまく取り入れるかが課題となる。

和牛改良の原則は、個々バラバラでなく、地域のみんなが一つにまとまって取り組むことであり、生れたいい子牛は他に売らずに地元に残していくことだ。

この優良子牛保留対策を、いかにうまく進めるかがまた一つの大きな課題でもある。

東由利という地域を見聞するに、繁殖に適した土地であり、まだまだ牛は増やせると思う。今後は、高く売れる子牛を生んでくれるいい牛を増やしていくようみんなで頑張っていきたい。

出かせぎと国保

今シーズンの出かせぎ期間も残すところ一カ月余りですが、皆さんには元気で活躍中のことと存じ上げます。

郷里は二十年ぶりとかの暖冬で、除雪車の出勤回数も数えるほどという、きわめてしのぎやすい冬で経過しています。

さて、今月は被保険者証の更新と出かせぎ終了後における国保への再加入手続き等についてお知らせします。

被保険者証 四月からクリーム色に

国保の被保険者証は二年ごとに書きかえられますが、現在使用中の青色のもの有効期限は今月末までで、四月一日からはクリーム色の新しいものと交換（今月末日頃に部落自治会長さんを通じて現行のもの引きかえで配布いただく予定）になります。

これと同時に、被保険者証も更新が必要になりますので、四月以降も引き続き必要とされる方は、今月末に、現在交付をうけている被保険者証に、任意の用紙を用いて住所、氏名、被保険者証の送付先、および四月以降の就労予定期間（四月一日から〇月〇日まで）を明記して係へ請求してください。

また、被保険者証の交付

をうけている方で更新を要しない方は、三月末日の有効期限が終り次第速やかに返還するようお願いいたします。

帰ったらすぐ国保加入の届出を

出かせぎ先で会社等の健康保険に加入された方は、出かせぎをやめた時点でその健康保険から脱退し、それと同時に国保の被保険者となるのが普通です。

この手続きには、会社等が発行する資格喪失の証明書添え、再度国保の資格を取得する届出（十四日以内）が必要です。

この届出が遅延すると保険税を一時にまとめて納付しなければならなくなったり、万一病気の場合は全額自己負担しなければならぬなど、不利なことが多くなります。

被保険証の発行には在学証明書が必要

被保険者証の有効期限はそれぞれの年度末となっていますので交付をうけている方は速やかに返還してください。新たに必要とする方は、在学証明書（またはこれにかわる書類）の呈示が必要ですので交付申請時まで準備してください。

少年の自殺を考える



次の世代を背負って立つ少年少女が、ある日、自らの手で生命を断つ——子供の自殺ほど、私たち大人にとって胸を突かれる衝撃はありません。

しかも、この少年の自殺が、今年に入って異状ともいえるほど全国的に相次いで起き、教育関係者をはじめ多くの人々にショックを与えています。

最近の傾向は、性格的にも明るく、何不自由なく育てられ、とても自殺など考えられない、いわゆる普通の子どもが自殺が増えています。

なぜ、そんなに死に急ぐのか——子どもの自殺について考えてみました。

データ・少年の自殺

女の子の自殺が増える

少年の自殺——ある少年は予告し、ある少女は快活にふるまい、ある少年はほんの小さな失敗に悩んでいた……。そのどれもが、大人の目から見れば、必ずしも死と直結する動機とはいえず、理解の手がかりさえも見えない場合があります。

大人の気持ちとは裏腹に、少年たちはなぜ死を選んだのか。昨年の上半期（一月～六月）に発生した少年（十九歳未満）の自殺について、性別、動機など、その背景をまとめてみます。これによると、総数は四百五十三人。昭和五十二年の同期に比べて三十二人、七・六％増えています。

性別では、男の子が二百九十八人、六六％、女の子は百五十五人、三四％。五十二年の同期校から大学生までの二百九十九人のうち、一番多いのは高校生の百四十六人で、全体の六七％を占めています。次いで中学生の八十八人、三十九人で、中・高校生合わせて八五％にもなります。また、小学生は四人、大学生は三十人となっています。

子供の心を読みとる努力を

このように、一口に自殺といっても、その動機や背景はさまざまです。大人にとっては、なぜ、そんなことで……と、理解しがたい一面もあるでしょう。しかし、少年たちは、苦しみぬき、その結果、自らの生命を断ったのです。その胸中たるや、察するに余りあります。

子供の自殺

昭和53年上半期における少年の自殺の実態（警察庁）
（昭和52年との比較は上半期のものです）

	総数	9歳	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	不詳
昭和52年	421人	1	1	0	4	8	31	29	46	82	108	109	2
昭和53年	453	0	2	1	3	12	16	25	56	89	113	136	0
増減数	32	▲1	1	▲1	▲1	4	▲15	▲4	10	7	5	27	▲2
増減率	7.6	▲100.0	100.0	—	▲25.0	50.0	▲48.4	▲13.8	21.7	8.5	4.6	24.8	▲100.0

▲印は減少を示す。以下同じ。

原因・動機別

	総数	学校問題	家庭問題	男女関係	病苦等	経済・生活・職場問題	その他	不詳
昭和52年	421人	118	54	53	36	21	119	20
昭和53年	453	131	41	72	50	28	110	21
増減数	32	13	▲13	19	14	7	▲9	1
増減率	7.6	11.0	▲24.1	35.1	38.9	33.3	▲7.6	5.0

自殺のサインを見落とすな

周囲の人に助けを求める

少年の自殺は、日ごろ接している家族や学校の先生、友だちも気づかないまま、何の前ぶれもなく突然起こる、と思われているようです。



「なんとなく無口になった」「顔色がさえないかった」など、いくつもの兆候に思い当たること

自殺しようとする少年は、自殺によって現在のつらい状況から逃げ出したいと願う半面、どうにかして助かりたいという気持ちを強く持っています。それが「予告兆候」——つまり、自殺のサインとなって表れるのです。

子どもが、訴えかけるサインを見逃さないためにも、家族や周囲の人は、日ごろから何でも話しあえる関係をつくることに努めてください。

さて、そのサインですが、「学校をやめたい」「もう家族の重荷にならなくてすみそう」「旅に出る」などの間接的表現に始まり、気分が沈みがちで顔色もさえず、いらだち、不眠、食欲不振などの兆候があらわれます。

さらに、生きていてもつまらない」というような直接的なサインを出すようになり、日記やノートを焼き捨てるなど、身辺の整とんをするようになると、もはや危険なサインと考えてよいでしょう。

「死の教育、をしていないか」

励ましがかえって重荷に

たとえば、受験勉強——。

「死ぬ気になつてやれば、できないことはない」「死んだ気になつてやれ」——などと励まして

しているつもりで、子どもを死へ追いやるような教育をして、ないでしようか。

聞いている方では「そんなら死んだ方がましだ」という気持ちになつて、ちになつて、とも知らずに——。

大人は、死の恐怖を十分に知つて、死んだ気になつて、努力することは可能です。

しかし、子どもは死の意味、

自殺の意味を十分理解しておらず、ただ「自殺の「行為」はテレビなどを見てよく知っています。これが怖いのです。

殺されたはずのタレントが、チャネルを回すと、ちがう番組ではニコニコ笑いながら歌っている。

子どもは、目の前の苦痛から逃れるために自殺（の行為）を選ぶ、ということにもなりかねません。

自殺には、必ず「準備状態」があるといわれます。ふだん耳にしている「死の教育」が、潜在的に心の中にその影を落とし



ていき、ある瞬間に自殺へとかりたてることになるのです。小さな失敗を恐れさせず、もう一度困難に挑戦させるねばり強さを植えつけたいものです。

人生は、死んだつもりでやっても、期待通りの結果がいつも出るとは限らないのですから。

町農委選 登録者数は三、五九七名

確認は縦覧期間中に

毎年一月一日現在で調製する町農業委員選挙人名簿の登録者数が、二月十七日の選挙管理委員会での確認、決定されました。

これによると、今年の登録者総数は三千五百九十七人で、昨

年に比べて八十四人の減となっています。

- 各投票区別の登録者数は別表のとおりですが、この登録は次のような資格要件によって行われるものです。
- ① 一月一日現在、本町に住所を有するもの。
 - ② 昭和五十四年三月三十一日現在で満二十歳以上である者。
 - ③ 十以上の農地につき、耕作の業務を営む者。

福祉の窓

●制度の目的

この制度は、精神薄弱児（者）に対して一貫した指導、相談を行うとともに、これらの者に対する各種の援助措置を受け易くするため手帳を交付し、精神薄弱児（者）の福祉を増進しようとするものです。

●手帳交付の対象者

療育手帳の交付対象者は、十八歳未満の児童については児童相談所、十八歳以上の者については精神薄弱者更生相

療育手帳制度

重度心身障害児（者）

に援護費支給

●各種の恩典

- 1、精神薄弱者福祉司がいろいろな相談に応ずるほか、監護者に対する指導を行う。
- 2、特別児童扶養手当が受けら

- 4、所得税、住民税（町県民税）の諸控除及び減免を受けられる。
- 5、公営住宅への優先入居ができる。

- 6、町県民税非課税世帯の場合、NHK放送受信料の免除が受けられる。
- 7、保護者に対して、経済的軽減と障害児（者）の福祉の増進を図るため、療育援助費を支給する。（秋田県の実施事業で療育手帳の判定がAである保護者に対して、月額四千円が支給される。
- 8、療育手帳A所持者は、医療費の自己負担額が無料になる。

農業委員選挙人名簿登録者数

(54.1.1)

投票区	男女別	男	女	計
第1 (館合)		378人	402人	780人
第2 (田代)		298	298	596
第3 (袖山)		80	83	163
第4 (蔵)		215	232	447
第5 (老方)		311	310	621
第6 (法内)		176	159	335
第7 (宿)		325	330	655
合計		1,783	1,814	3,597

警察官異動

県警察官の定期異動により、本町駐在の警察官が次のとおり異動しました。

▼転出
大湯正雄（巡査）子吉駐在所へ

▼転入
大竹久昭（巡査）象潟警察所から

家族そろって加入を

※市町村交通災害共済※

加入申込受付 2月1日～3月31日

*詳しくは役場住民課交通災害共済係へ

●縦覧期間 二月二十三日～三月九日（毎日午前八時三十分から午後五時まで）
●縦覧場所 東由利町役場

町民のひろば



町の概要	
人口総数	6,427人
うち男	3,162人
うち女	3,265人
世帯数	1,468戸
面積	148.51km ² (54.2.1)

傷んだ机やのし板修繕

建設技能 組合青年部 各小で奉仕作業



修繕作業は手ぎわよく行われた

昔自分が学び育ち、今自分の子どもが学んでいる学校にお礼の意味を込め、社会に役立つことを——と、大工や左官、板金工などで組織している町建設技能組合青年部(工藤保春部長、部員三十三名)では、今年も二月二十三日、住吉、玉米、老方、蔵の各小学校と永慶保育園で、小破修繕の奉仕作業を行な

いました。

この奉仕作業は、昭和五十一年から毎年この時期に行われているもので、当日は出かせぎ等に行かない二十人の部員が参加し、四人ずつ別れて机やイス、のし板や本棚などのいたみを修繕しました。

午前八時過ぎから始まった作業は手ぎわよくすすめられ、お昼までには終了し、子どもたちからは、スキ間風が入ってこなくなったり、戸の開け閉めもラクになった、など大変喜ばれていました。

善意

宿小にお手玉180個と長寿袋20袋
大琴の佐々木ミネさんはこのほど宿小に、お手玉百八〇個と長寿袋二〇袋を贈り、喜ばれています。

阿部さん(蔵出身)

町の福祉に役立てて

町社福協に寄付

本町蔵出身の阿部節代さん(62歳、剛さん姉、酒田市在住)から、町の福祉向上に役立ててと、このほど町社会福祉協議会に三万円が届けられました。阿部さんは、三十三歳の時に夫と死別し、その後四人の子どもたちを女手一つで育てあげながら、十年前現在地に移り、寝具店「あきたや」を開店し今日に至っています。

主婦の一口メモ

体の変調にご注意を

春先の天候は気まぐれ

春先の気候は、本当に気まぐれです。春のあたたかさにさそわれて、土中の虫はいき出るといふかと思えば、とくには、「寒の戻り」といって、再び真冬のような寒さがやってきたりします。それも一度ではなく、いわゆる三寒四温が何回か繰り返されて本格的な春の訪れとなるのです。

このような気候不順のため、春先になると体の調子がおかしくなるという人が多いのです。これは春先の、天候の激しい移り変わりが原因している場合が多く、別名「気象病」ともいわれています。

前線がやってくる一日前ぐらいいから、古傷が痛んだり、神経痛にかかったりします。

先頃、老令年金受給にあたり自分を暖かく育ててくれた故郷に、いくらかでも恩返しをした——と、初めて給付を受けた年金をそっくりそのまま贈ってくれたものだそうです。

町社福協では、こうしたご芳志に心から感謝するとともに、より充実した住民福祉のために役立てたいと喜んでいきます。

社福だより

故小松篤之助殿のご遺族(畑村、小松篤さん)より香典返しとして三万円が届けられました。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

故小松ハルノさんのご遺族(下通、小松与一郎さん)より香典返しとして五万円が届けられました。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

故千葉長一殿のご遺族(中の沢、千葉マツさん)より香典返しとして三万円が届けられました。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

故小松雄治郎殿のご遺族(下小路、小松昭作さん)より香典返しとして五万円が届けられました。故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

お詫びと訂正
二月一日発行一八七号の十ページ下欄の「結婚おしあわせに」の記事中
佐藤 秀志 宇戸坂
島山さつき 横浜市
となつていますが「島山さつき」の誤りでした。
お詫びして訂正します。

慶弔

1月21日〜2月20日



〇誕生 おめでとう

- 長谷山留美 地下の沢 一司 三女
 - 小松 哲広 湯出野 健 長男
 - 志村 梨香 新町 仁 長女
 - 島山 正人 館合新田 正博 長男
 - 斎藤 和也 島 文夫 長男
 - 畑山 裕司 島 克司 二男
 - 佐藤 幸也 黒瀬 敬一 二男
 - 小野めぐみ 下小路 善久 長女
 - 千葉久美子 中ノ沢 長喜 長女
 - 横山 和代 向田 和男 長女
 - 佐藤 英明 新沢 栄志 長男
- ・お悔み申し上げます
- 小野 長栄 高屋 47歳
 - 仙道信次郎 新沢 73歳